[特別記事]

Andiamo a Palermo!
――パレルモ音楽紀行

取材・文=中 東生 Shinobu Naka

地中海に浮かぶ美しい島、シチリア。透き通る海に熟したオレンジ、新鮮な魚料理、白いアーモンドの花……しかし、魅力はこれだけではない。シチリアの中心都市パレルモでは、市民の誇る“音楽の殿堂”マッシモ劇場や、コンサートが度々催される教会、作曲家ゆかりの建築物など、街のいたるところに音楽の歴史がしっかりと刻みこまれている。音楽ライターの中東生氏とともに、パレルモの知られざる音楽スポットを巡ってみよう。

①ギリシャ語で「全てが港」という意味の『パノルモス』が地名の由来。ゲーテも『空と海と大地の調和』と詠っている
©Anita Fuerst

ゲーテが『イタリア紀行』の中で「この街を見たものは一生忘れることができない」と讃えたパレルモ。ローマから飛行機で1時間ほどなので、イタリアにおいでの際はぜひ一度足を伸ばしていただくよう、お勧めしたい(①②)。パレルモはイスラム文化の影響も受けており、建築的にも観るべき場所がたくさんあるが、今回は『音楽の友』読者の皆さんの視点として、〝音楽都市としてのパレルモ〟を紹介させていただくことにする。

音楽が生活に根づく街

パレルモ市民への音楽浸透はとても自然な形で実現されており、夏にはKal'Sart(www.buongit/Musica/Pagine/Kal'sart.htm)というフェスティヴァルが開かれ、旧市街中の古い教会すべてで無料のコンサートが開かれる(③)。そして毎月11月の第2週目には、市街から約8キロ離れたカプート山中腹のモンレアーレで、シチリア州主催のRassegna di Musica Sacra という国際的フェスティヴァルも開かれる(④)。それ以外にも、毎週日曜のミサでストリートミュージシャンに演奏させ、ミサ後にコンサートを開くというChiesa di Catenaという教会もあるほど、音楽が生活の一部になっている。

市民が誇りを持っているものに、マッシモ劇場がある。1875年に建築が開始され、1897年に完成した(⑤)。その後20年もの改築を経て、1996年に再オープンしたが、劇場の内部は、建築当時のものと思われる古びたレンガ造りのデッド・スペースなどが残されていたりして、歴史を感じさせる一方、丸天井が必要に応じて開くシステムも導入されたらしい。残念ながら改築後、このシステム自体に欠陥が見つかり、あまり使われることはないそうだが、ぜひ館内ツアーをお勧めしたい。

このマッシモ劇場はちょうど来日計画の最終段階に入っているので、アーティスト・ディレクターのマリアーニ氏に話を聞いてみた。「詳細は、招待してくれる機関を通さないとはっきりお話しできませんが、《カヴァレリア・ルスティカーナ》《道化師》で訪日する予定です。1つは既存のプロダクションで、なるべく同じキャストを揃えられればと期待しています。もう1つは来年こちらでプレミエを迎えてから、日本に持って行くつもりです。楽しみにしていて下さい」

「そんな長い修復の間、オペラは上演されなかったのか」と疑問に思われるかもしれない。でもこの街にはその昔劇場がたくさんあり、その中で、シチリア交響楽団の本拠地であるポリテアマ劇場を使って上演されていた。これはサーカス用に建てられた劇場で、外観からも分かるように、アーチ状になって

おり、1階座席の舞台に向かって右端前方では、音が二重に聞こえる席もあるらしい(⑥)。「それならその20年間、シチリア交響楽団のコンサートはどこでやっていたのか」という次の疑問にもお答えしよう。ゴルデン劇場という、現在は映画しか上映されない劇場を使っていたが、実はここが一番音響がいいと、演奏家の中でも評判だ。ぜひまた、音楽に使っていただきたい。

劇場の知られざる過去

それ以外にもパレルモには、年間2、3のオペレッタが上演されるZappara劇場の他、Santa Cecilia劇場、Galibardi劇場、Ibbero劇場、al Massimo劇場など、また演劇専用のBiondo劇場、シチリアの伝統的人形劇専用の劇場もある。その他、Teatro musica popolare Siciliana という伝統民謡を紹介する、600年前から使われている劇場もある。

ゴルデン劇場のように映画に使われるならまだましで、忘れ去られた運命の、ベッリーニ劇場のようなものもある(⑦)。ここは昔は由緒あるオペラハウスで、1826年にはあのドニゼッティがアーティスト・ディレクターに就任しているのである。このような通好みの情報は、パレルモ出身の音楽家しか知らないことである。現在アメリカのボルティモア歌劇場とシドニー歌劇場の常任指揮者として活躍しているマエストロ、アンドレア・リカータに教えてもらった知られざるパレルモだ。

その他、地元人には「Ece Homo」という階段下のイエス像を指す愛称で呼ばれるサンタントニオ・アバテ教会は、1660年にアレッサンドロ・スカルラッティが洗礼を受けた教会だそうだ。パレルモの2大道路の1つであるローマ通り沿いにあり、図書部などは充実しているが、目指して行かなければ見過ごしてしまうような、普通の教会だ(⑧)。

レストランでの出会い

また、パレルモの街に導かれたような出会いもあった。どしゃぶりの雨の中、勧められたレストランOsteria dei Vespri (Piazza Croce dei Vespri 6, 901333 Palermo Tel:091-617-2718) を探しあぐね、最後はレストランに電話して、親切な店長に車で迎えに来てもらい、やっとの思いでたどり着いた。名前から皆さんもヴェルディの《Vespri Siciliani (シチリア島の夕べの祈り)》を思い浮かべるだろう。車の中で親しくなり、聞いてみると大当たり。このレストランのある広場があのオペラの舞台になった広場の1つだと言われている。そして、同じ建物の上にはガンジ邸があり、ワーグナーが1882年に《パルジファル》の最初の数小節を書き始めた場所だったのだ。その上、1963年にはヴィスコンティの映画『Gattoprdo (山猫)』が撮影されたという。店長に見せてもらったパンフレットはヴィスコンティの世界そのもので素晴らしく、翌日すぐ見学申し込みをしたのだが、20人ほどのグループ見学が前程で620ユーロかかるといわれ、あきらめた。グループ旅行の際はぜひ問い合わせてみてほしい。(Tel:091-617-2718 ミジェッリ氏)

パレルモの音楽家事情

パレルモ出身の音楽家には、前述のマエストロ・リカータの他にも、テノールのヴィンチェンツォ・ラ・スコーラ、ソプラノのデジレ・ランカトーレ、作曲家でパレルモ音楽院長も務めたフランチェスコ・マンニーノ、他にもやはり音楽院長を務めたチェリストで作曲家のエリオドーロ・ソッリマと、彼の7人の子供達(特に有名なのはチェリスト兼作曲家のジョヴァンニ・ソッリマ)、現音楽院長で指揮者のカルメロ・カルーソなどの有名人がいる。この取材に協力してもらった若手ソプラノのトゥリア・ベッレッリは、歌のレッスンにミラノまで通う。これだけ音楽が盛んなパレルモで先生が見つからないのか、と尋ねると、「シチリア島では、外国に出る感覚でイタリア本土に行って箔をつけないとキャリアを積めない」と笑う。そう言えばラ・スコーラもスカラ座養成所卒だった。ランカトーレもドイツ語圏から有名になった。

また、ヴァイオリニストのルイジ・ロンジーニは、音楽が浸透しすぎているがゆえの、

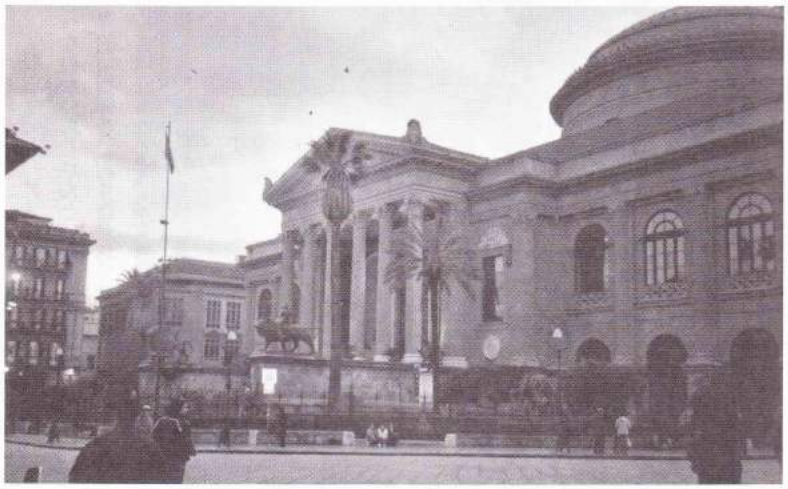
②パレルモ中央駅。ローマからパレルモまでは鉄道で約11時間、飛行機で約1時間だ

③町中の教会の中でも、一番音響がよいと評判のカテドラーレ ©Evelyne Züllig

④1174年に建造されたモンレアーレ大聖堂は、シチリアにおけるノルマン芸術の最高傑作と言われている。内部祭壇後陣では、どこから見ても目が合うように感じられるというキリストのモザイクが目をひく(右)。また美しいパイプオルガンもある(上)
©Anita Fuerst

音楽家の苦労話も聞かせてくれた。「無料コンサートが多いということは、国からシチリア島に対する補助金が出ているにしても、音楽家の生活は楽ではないということです。定職を見つけるのも難しいし、職があっても待遇が悪く、先日のマッシモ劇場でのストライキのように常に戦わなければなりません。人員数も給料も下がって、交代制ではなく、劇場が開いている日はほぼ毎日弾かなければいけない状況なのです」

それでもシチリア人には島に対する誇りがある。パレルミターノ（パレルモ市民）であるという自信が出会ったすべての人から感じられた。



⑤マッシモ劇場。プレミエの夜にはまるでオスカー授賞式のような赤絨毯が階段を覆い、有名人を撮影するマスコミのフラッシュが点滅する。収容人数は3400

⑥ポリテアマ劇場。マッシモ劇場より音響がよく、舞台も見やすいので、昔を偲ぶオペラファンも多い

カフェでのできごと

最後に、パレルモと言うとまず想像するだろうと、彼らの方から話し出したマフィアについて触れておこう。「そういうイメージは私達にとってとても残念だが、少なくとも現在のパレルモにはそのようなことはないので、皆さん安心して来て下さい」

確かに、人はおっとりしていて、街も、他のイタリアの大都市と比べて落ち着いている。ゴミ箱の数もビックリするほど多く、清潔だ。ただ中心地を逸れると、歩きにくい道、ゴミの山、独りで通る勇気が出なかった市場などがイタリアを実感させる。

そしてある事件。La Spinnataという老舗カフェでインタヴューしていた時のこと。インタヴュー相手の知り合いがだんだん集まってきて、私の退席後、残っていた6人グループの1人が、椅子の下に置いてあったリュックサックを盗まれた。（半分イタリア人で、イタリアに住むこと14年の彼女でもこんなミス。持ち物は絶対に手から離さないで下さい）カフェの店長の勧めで警察にも行き、アパートの鍵もなんとか大家さんに開けてもらい、一段落した頃、自分の携帯に電話してみると、偶然電話だけ拾ったという男の声。待ち合わせをして、引き渡しに来たのは声の主とは違うと思われるよぼよぼの老人。さらに驚いたことに、最後にはリュックサックごと全部、見つかったらしい。お金も一銭もなくならずに。しかし、金額は同じでも、お札の入れ方が違っていたと言う。この不思議な事件の、地元人の解釈は、「格のあるカフェや商店はマフィアに多少のお金を払って守ってもらっているらしい。それなのにこのような事件が起きたら、店の信用にかかわる。被害者に警察に行くよう勧め、その間にマフィアに連絡し、すべて手元に戻るよう手配したのだろう。盗んだのは下っ端だったのではないか」ということだった。終わりよければすべてよし、一件落着だが、マフィアの存在抜きにしては理解不可能な事件だった。

しかし現在、どこに行っても危険はつきまとう。そんな心配が吹き飛ぶほど見る価値のある街なので、皆さん一度ご堪能下さい。

⑦ベッリーニ劇場。入り口には演劇のプログラムが貼られているが、劇場としてはほとんど使われていない

⑧大通りの喧噪の中にひっそりと建つサンタントニオ・アバテ教会。何人もの通行人に聞いても知らないほどだ

【パレルモの主要音楽スポット・教会】
※以下、名称、住所、電話番号、URLの順

○マッシモ劇場
Teatro Massimo
Piazza G. Verdi n. 2, Palermo
+39-091-6053111
http://www.teatromassimo.it

○ポリテアマ劇場
Teatro Politeama
Piazza Ruggiero Settimo,2, Palermo
+39-091-588001

○ゴルデン劇場
Teatro Golden
Via terra Santa, 60, Palermo
+39-091-305217

○モンレアーレの教会
Duomo di Monreale
Piazza Guglielmo il Buono, Monreale
+39-091-6404413

○カテドラーレ
Cattedrale di Palermo
Corso Vittorio Emanuele, Palermo
+39-091-334376
http://www.cattedrale.palermo.it/

○サンタントニオ　アバテ教会
Chiesa di Sant'Antonio Abate
Via Roma,203, Palermo

○ベッリーニ劇場
Teatro Bellini
Piazza Bellini, Palermo
+39-091-7434312

○Palazzo Gangi邸
Piazza Croce dei Vespri 6, Palermo
+39-091-616-2718（Migelli氏）

【おすすめレストラン&カフェ】

○Spinnata（老舗カフェ）
Piazza Castelnuovo 16/17
Via Principe di Belmonte, Palermo
+39-091-32-9220

○Lo Sparviero（レストラン）
Via Sperlinga 23,25, Palermo（マッシモ劇場から徒歩3分）
+39-091-33-1163

○Lo Scudiero（レストラン）
Via F.Turati, Palermo（ポリテアマ劇場隣り）
+39-091-58-1628